

セッション	C. 語彙論：語の用法 (2014.3.22 於 北京日本学研究中心)
タイトル	東アジア諸国の言語における漢字語使用状況の研究プロジェクトについて
著者名(所属)	施建軍 (北京日本学研究中心)
連絡先 Eメール	Jianjunshi_cn@126.com
<p>日本語の文章に漢語は47.5%を占めている(金田一春彦1988:421)。韓国語の語彙の69%は漢字語である(『国口大辞典』李熙升口纂的(1961))。一方、ベトナム語はラテン文字を使っているにもかかわらず、漢越語も沢山使われている。黄文衡の『通用漢越要素詞典』によると、現代ベトナム語においては語彙の約60%は漢越語である。政治、経済、法律などの分野の文章には漢越語は70%、80%まで占めている。日本語でも、韓国語でも、ベトナム語でも、これらの単語がみんな漢字で書けるものであるから、ここで漢字語という。漢字語は中国から伝わっていたものだけではなく、漢字文化圏の国の人民の知恵によって作られたものも少なくない。例えば、近代日本では漢字語をたくさん創出しただけではなく、現代中国語に入り、中国人の日常用語になった日本製漢字語もありふれている。一方、韓国でもベトナムでも、文化を反映する漢字語も創出されている。漢字語は東アジア国々の人民に作られた共同的な富である。</p> <p>中国人と日韓越の人との間ではこの共同的な富を利用しさえすれば、簡単なコミュニケーションが実現である。中日韓越四ヶ国の人がお互いに対象国の言語を勉強するとき、漢字語も一種の近道になる。もちろん、漢字語は中韓日越においては意味が必ずしも同じものではない、似たりよったりしたものもある。これらのものはまたコミュニケーションのギャップになってしまう。だからこそ、中韓日越の言語における漢字語の研究は特に意義がある。</p> <p>非常に研究価値のある分野であるから、外国語教育や語彙交流などの角度から、日韓越諸言語における漢字語についてはだいぶ昔から研究を積み重ね、成果を山のように収めているにもかかわらず、課題がたくさん残っているのも現状である。例えば、現代中国語と日韓越諸言語においては同形語はどれほどあるのかというようなまるで足元にあるような問題さえまだ結論が着いていない。こういうことで、東アジア国の言語における漢字語の現状を巡って、2012年中国教育部では施建軍を代表者とした大型プロジェクトが立ち上がった。</p> <p>このプロジェクトは主として下記のような研究課題に取り組んでいく予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、日韓ベトナム語における漢字語の語彙項目、使用頻度、中日韓ベトナム語における漢字語の分布状況</li> <li>2、中国語と日韓ベトナム語の共通語の語彙項目に関する調査(同形語研究)</li> <li>3、中国語にない日韓ベトナム語の漢字語の語彙項目に関する調査</li> <li>4、中国語と日韓ベトナム語の共通語をリストアップする</li> <li>5、中国語と日韓ベトナム語の共通語意味用法の対照研究</li> <li>6、東アジア諸言語の漢字語ウェブサイトの建設</li> <li>7、本研究に必要なソフトツールの研究開発</li> <li>8、本研究に必要な言語リソースの建設</li> </ol>	